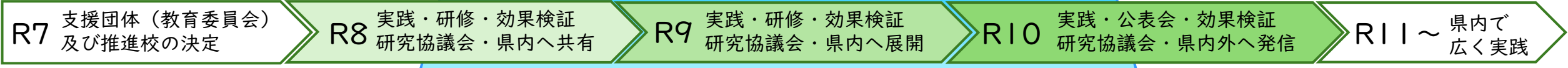


異学年集団による学び合い支援事業

◇ 目的

- ・意図的及び計画的に「異学年集団による学び合い」に取り組む学校を所管する市町村教育委員会を支援する。
- ・非認知能力（自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション能力等）、認知能力（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）の伸長を検証する。

◇ 年次計画



◇ 概要

※イラストは、Microsoft Copilotにより作成



- 【取り組む内容】**
- 3つ以上の異なる学年に属する児童生徒で集団を編成する。
 - 国語、社会、算数・数学、理科、生活科、外国語活動・外国語（英語）から1教科以上を選定する。
 - 年間10単位時間以上の学習活動を実施する。
 - 3年間継続し、学校公開、校内研修等を通じて効果を検証し、実践を広く共有する。

【異学年集団による活動で期待される効果】

これまでも多くの学校では、学年の異なる児童でグループを編成して、遊びや掃除、給食、登下校などの異年齢集団活動に取り組んできた。これを教科の授業にも取り入れることで、非認知能力及び認知能力の伸長を目指す。

非認知能力の伸長

- 特別活動等を通して
 - ・ 目標に向けて努力する
 - ・ 仲間と協力して取り組む
 - ・ 違いを受け止め認め合う等



認知能力の伸長

- 教科の授業を通して
 - ・ 計画的に学習を進める
 - ・ 自分の考えを説明する
 - ・ 複数の情報を比較して判断する等



【算数・数学で期待される効果の例】

数学的な見方・考え方を働かせ、見通しをもって学習に取り組む力が高まる。

≪上学年≫
下学年に説明することで、数量や図形についての理解を深め、数学的に表現する力が高まる。

≪下学年≫
基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、粘り強く学習に取り組む態度が高まる。

